

特別決議（案）

## ひとりの人を大切にする学校、そして社会をつくろう

入管で一人の女性が亡くなった。スリランカ出身のウィシュマさん、DVを避けて入管に飛び込んだものの、送還を迫られ、衰弱し、点滴を受けることも許されずに亡くなった。その経過の報告は書き換えられ、無かったことにされようとしている。

森友学園の証拠改ざん事件では、心ならずも上司の命令に従った赤木俊夫さんは、そのことを苦にして死に追い込まれた。真相を記したファイルの存在は認めたものの未だ公開はされず、真理は無かったことにされようとしている。

福島原発事故から10年、いまだに帰還することができずにいる人が数万名。その一人ひとりに名前がある。その一人ひとりの名前を顧みることなく「復興」の言葉が躍る。まるで原発被災がなかったかのように。

香港やミャンマー、パレスティナで市民に向けて暴力が振るわれている。私たちの政府はそれに対し見て見ぬふりをしている。

私たちの政府は原水爆禁止条約に反対している。私たちは広島・長崎の被爆の経験をいまだ生かせずにいる。

2月13日の福島沖の地震の時「井戸に毒」という投稿が3万件にのぼったという。100年近く前の関東大震災で起こったこと、それに目を閉ざしたままだと、同じ過ちを繰り返すことにならないか。

「一人の人間を大切にしよう」という発想が今ほど求められているときはない。コロナ下で「新しい生活様式」が否応なく洪水のように迫ってくる現在（いま）、何が大切なことで、何がどうでもよいことなのかを見極めたい。

虚偽の言葉ではなく、本当の言葉で語ろう。

やったふり「やってる」感でごまかし、相手をあきらめさせる手口には注意深く対処しよう。相手に届く言葉、響きあう場を学校のなかに創ろう。

ジェンダーバイアス、SOGI（性的指向、性自認）、アンコンシャス・バイアス・・・

昨日まで知らなかった言葉にも開かれた姿勢で立ち、

自分の中の無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）のありようにもアンテナを立てよう。

一人ひとりが自らの足で立ち、自らの目で見、自らの頭で考え、自らの言葉で語ろう。

〈私〉を〈あなた〉と繋ぎ、一人ひとりの人を大切にする「場」を  
〈私たち〉の力で切り拓こう。

一人ひとりの人を大切にする場を、今こそ学校に、社会の中に創っていこう。

そのために、今、私たちにできること、それが何であるのかを自らに問いつつ

「ソーシャルディスタンス」のためらいの中から、新しい一歩を踏み出そう。

以上、決議します。

2021年6月19日

京都市立高等学校教職員組合 第84回定期大会